第2学年　国語科学習指導案

日　時：平成17年10月５日（水）
学　級：２年２組 男子16名 女子19名 計35名
授業者：高橋　栄子

１ 教材名　　四 古典を楽しむ　　扇の的―「平家物語」から―

２ 教材設定の理由

（1） 生徒観

学習に取り組む姿勢は前向きで、教師の話を良く聞き、漢字練習や語句の意味調べなども一生懸命取り組んでいる。しかし、全体的に受け身であり、一部の男子生徒の発言で授業が進行することが多くなる。特に、女子は、プリントやノートにしっかりと自分の考えを書いていても自分からは発言しない傾向がある。

そのため、生徒全員に参加させ、自分の考えや感想をみんなの前で発表できる生徒を育てたいと思い、一学期は、「春を伝えよう」の学習で、班ごとに詩の朗読を工夫させたり、春から連想するものを個人で発表させたりした。しかし、恥ずかしがって声を出さない生徒が多く、事前の指導が不十分であったと反省した。

古典に対する関心はあまり高くないようである。古語を読むことへの抵抗、文意のとらえにくさ、社会状況や生活習慣の違いなどが障害となって、難しいもの、なじみにくいものとしり込みしやすいのが実態である。そこで、生徒のこうした思いをくずし、古典を読むことの面白さを感じ取らせ、自ら学ぶ喜びを味わわせるために、「古典の文章に読みなれる」ということに主眼を置き、個別、グループ別による音読、朗読、暗唱といった学習活動を意図的に授業に組み入れ、生徒一人ひとりが正しく、そして豊かに音声表現ができるようになることを目指したい。

（2） 教材観

学習指導要領では、古典の指導について「古典としての古文や、漢文を理解する基礎を養い。古典に親しむ生徒を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。」「指導に当たっては、音読などを通して、文章の優れた表現を味わうことができるようにし、文語における言葉のきまりについては細部にわたることなく、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。」とある。これらを受けて、１年生は古典との出会いの場であり、古典とはどういうものか知ることがねらいであった。

２年生では、原文中心で、原文中心に教材を構成してあり、古文や漢文の表現から古人の心に触れ、古典を楽しむ学習を目指している。本単元では、古文は物語文学として「平家物語」、随筆として「枕草子」と「徒然草」を、漢文は漢詩を学習する。

「平家物語」は我が国の代表的な軍記物語である。「扇の的」は、那須の与一が扇を見事に射落とし、どよめきたつ平家・源氏両軍。しかし、与一の腕に感動して舞を舞った老武者までもが、続いて射倒され、場面は一転して非情な戦場へと引きもどされる。御定とあれば罪なき人に射ることもせねばならない与一の悲しさ、戦の厳しい現実と向かい合う人々の切実な姿を読むことで、自分自身を含めた人間の生き方を追究できるのではないかと思われる。

文体は「和漢混交文」で表されている。和文脈の柔らかさと漢文訓読調の硬い響きが溶け合って独特のリズムを作り出している。擬態語・擬音語や色彩語を用いたり、係り結びや対句表現を配置するなど、語り物として洗練され、磨き上げられた表現は、声に出して読み味わうのに適している。群読や朗読により、古典の楽しさを味わえる教材である。また、古典の内容について、自分とは無

関係なものとして眺めるのではなく、登場人物の気持ちを想像させ、そのことについての自分の考えを持たせ、古典を自分たちの生活や思いに近づけて考えるようにさせたい。古典ではあっても、現代の人々にも共感する思いがあり、より古典を親しみあるものとしてとらえさせたい。反面、一つの時代を背景として、明らかに今とは異なる生き方があったことも考えさせたい。

（3） 指導観

古典の学習は1年ぶりなので、アンケートにより、古典に関する意識調査を行い、歴史的仮名遣い、助詞や主語の省略など基礎的な内容の定着の実態を把握した。次に、「平家物語」の概略を紹介し、冒頭部については、暗唱を全員に行わせたい。

「扇の的」の本文は、「扇の的」までのあらすじをまとめた現代文の部分と、原文と口語訳を上下に対照させた部分との二つからなっている。「扇の的」の場面にいたるまでのあらすじについては、教師が範読し、状況を確認させて、あらましを押さえさせたい。原文の部分は、まず、音読ができるように練習し、ペア練習によって、学習状況の把握を図り、自信を持ってすらすら読めるようにさせたい。次に、原文と口語訳と照らし合わせながら、①歴史的仮名遣い。②助詞の省略。③主語の省略。④表現の工夫などを学習プリントを活用して基礎的内容の定着を図りたい。そして、「正しく音読できる。」という段階から、「情景や心情を踏まえて朗読できる」という段階に到達することを目指し、音読練習の時間を十分に与え、意欲を促したい。さらには、授業で学んだことを生かして班ごとに群読の台本を作らせ、発表させたい。

内容については、そのときの状況や歴史的な背景などを具体的に想像させて、登場人物の心情に迫りたい。古典のなかの登場人物の心情を想像し、当時の人々の思いも現代に生きる人の思いもそう大差ないことに気付かせることによって、古典との隔たりをなくし、興味を持たせたい。

3 教材目標

（1） 古文のリズムや言い回し、言葉や言葉遣いなどに関心を持つとともに、すすんで古典に親しもうとする。また、古文に描かれている状況や登場人物の心情などを想像して文章を読もうとしている。
［関心・意欲・態度］

（2） 登場人物の心情や行動、筋の展開に対する自分の意見を持ち、発表する。［話す・聞く能力］

（3） 古文の表現の仕方や文章の特徴に注意して、工夫しながら音読する。また、現代語訳や脚注などをもとに、物語の展開や場面、人物の心情を的確にとらえる。［読む能力］

（4）古文特有の言い回しや語彙、歴史的仮名遣い、現代語との意味の違いを理解する。
［言語に関する知識・理解・技能］

4 指導計画

①・「平家物語」について、成立年代や作品の特徴、文学的価値などについて理解する。
・「平家物語」の冒頭部を読み、内容を理解する。 ---------- 1時間

②・「扇の的」にいたるまでの現代文を読み、内容を理解する。 ---------- 1時間

③・「扇の的」を通読し、「扇の的」のあらましをとらえる。 ---------- 1時間

④・「扇の的」の第一場面を読み、与一の心情を考える。---------- 1時間（本時）

⑤・「扇の的」の第二場面を読み、内容を理解する。---------- 1時間

⑥・「扇の的」の第三場面を読み、内容を理解する。---------- 1時間

⑦・班ごとに好きな場面を選び、群読の台本を作る。 ---------- 1時間

⑧・班ごとに群読の発表会を行う。 ---------- 1時間

５ 評価規準　　扇の的―「平家物語」から―

学習活動	評価規準				
	関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
「平家物語」の一節を読み、場面の展開をとらえ、状況や心情を想像して古典を楽しむ。 文語文の言葉遣いの特徴をつかみ、「平家物語」独特の文体や言葉の持つリズム感を意識して音読する。	古典に描かれている状況や登場人物の心情などを想像して文章を読もうとしている。	登場人物の心情や行動、筋の展開に対する自分の意見を持ち、発表する。		現代語訳や脚注などを参考にして、物語の展開や場面、出来事のあらましをとらえている。 文語文の特徴をつかんで朗読している。	古典と現代語の仮名遣いや文末の言葉の使われ方や意味の違いを理解している。

６ 本時について

（1）主　題

扇の的を射る時の与一の心情をとらえよう。

（2）目　標

扇の的を射るときの状況や、与一の心情を理解する。（読むこと）

第一場面の原文を、歴史的仮名遣いやリズムに注意して、すらすらと読む。（読むこと）

（3）指導の構想

第一場面は、源氏と平家が固唾をのんで見守る中、与一が神仏に祈りながら弓を射ようとしている場面である。その時の物理的な状況と、精神的な圧迫感や緊張感をとらえさせたい。「なぜ、与一は死を覚悟して射ようとしているのか。」という問いをして、与一の心情に迫りたい。

また、音読する場面では、前時に学習した歴史的仮名遣いや対句法などに気を付け、すらすらと読めるかどうか、ペアで隣の人に聞いてもらい、相互評価をさせることで、音読に対する意欲を高めたい。また、自己評価カードに毎時間の感想を書かせ、学習に対する意識を高めたい。

（4）具体の評価規準

	A　十分満足	B　おおむね満足	C　努力を要する生徒への手立て
関心・意欲・態度	「扇の的」第一場面の原文を、進んで大きな声ですらすら読むことができる。	「扇の的」第一場面の原文を、しっかりした音量で、ほぼ間違わずに読むことができる。	歴史的仮名遣いや、意味の切れ目に注意するようにさせる。
読む	与一が弓を射るときの物理的な状況や、精神的な圧迫感や緊張感を理解し、根拠を明らかにして、自分の考えを持つことができる。	与一が弓を射るときの物理的な状況や、精神的な圧迫感や緊張感を理解することができる。	その時の時刻・扇の的までの距離・場所などについて確認させる。 もし、射ることができなかったら、どうなるのか、与一の立場を考えさせる。

7 本時の展開

段階	学習過程	生徒の活動	教師の指導・支援	評価・備考　○＝評価
導入 5分	1前時の想起 2学習課題の設定	1　前時の学習内容を確認する。 ・「扇の的」にいたるまでのあらすじを思い出す。 ・冒頭の文章を全員で音読する。 2　学習課題を知る。 扇の的を射る時の与一の心情をとらえよう。	1・与一の兄弟数を紹介し、与一の年齢、扇の的までの距離などを確認させ、興味を持たせる。	・前時の学習プリントで確認させる。
展開 30分	3課題の追究1 4課題の追究2 5　課題の解決（考えを発表しあう。）	3（1）第一場面を音読する。 ・　教師の範読を聞く。 ・　一斉に音読する。 （2）あらましを押さえ、その時の状況や登場人物、それぞれの立場を確認する。 「与一はどんな状況のもとで、神仏に祈る気持ちになったのか。」 4　与一の気持ちを想像して、プリントに書く。 「なぜ、与一は死を覚悟して扇を射ようとしているのか。」 5　考えを発表し合う。お互いの意見を聞き、考えを深める。	3　天候や時刻、扇の的までの距離、戦場という緊迫した場面であることなど、その時の状況を具体的に想像させる。 平家は沖に、源氏が陸にいて、両軍がかたずをのんで見守っていることを確認する。 4　もし、失敗したらどうなるのか、与一の立場はどうなのかを考えさせる。（個別指導） 5　数人に発表させる。	○　与一が弓を射るときの状況や与一の心情を考えられたか。（プリント） ・　本時で学んだことを、「扇の的」の学習の最後に行う群読にも活かせるようにしたい。
終末 15分	6本時のまとめ 7　次時の予告	6・　学習したことを生かして朗読の練習をする。 ①　個人→②ペアで練習 ・　全員で朗読する。 プリントに今日の学習を自己評価し、感想を書く 7　第二場面の見事に矢が命中する場面を学ぶことを知る。	6　すらすらと思いをこめながら読めるように練習させる。代表者数名に読んでもらう。 戦場の厳しい状況、与一の祈りと決意の部分を思い描きながら朗読する。	歯切れの良さ、リズム感、対句法も意識して読むようにさせる。 ○　第一場面を大きな声で、進んで読もうとしているか。（観察・プリント） ・　プリントを回収し生徒の学習状況を把握する。